

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年8月13日

【四半期会計期間】 第45期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 株式会社アスモ

【英訳名】 ASMO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長井 尊

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル

【電話番号】 03(6911)0550

【事務連絡者氏名】 管理本部長 松尾 勉

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル

【電話番号】 03(6911)0550

【事務連絡者氏名】 管理本部長 松尾 勉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第1四半期 連結累計期間	第45期 第1四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	4,923,132	4,979,550	19,574,988
経常利益 (千円)	241,067	282,492	1,137,161
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	148,007	173,751	681,357
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	164,860	159,495	686,170
純資産額 (千円)	5,062,626	5,603,224	5,583,936
総資産額 (千円)	7,600,937	8,204,884	8,348,134
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	10.56	12.39	48.60
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	65.2	67.3	65.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績

当第1四半期連結累計期間における世界情勢としては、前連結会計年度に開始された米国-中国間の貿易紛争が追加関税の示唆を伴いながら更に長期化し、世界経済への懸念が高まりました。また英国のEU離脱の具体化は引き続き迷走し首相交代プロセスに入り、大統領選を来年に控える米国政府からEU、日本への貿易改善要求も出され、波乱含みの展開となっております。

わが国の経済は、雇用情勢で新卒採用での売り手市場化している一方で、世界情勢を受け製造業を中心に景気の鈍化がみられました。

当社グループでは、各事業のストロングポイントを的確に見極めた上でシナジー効果を最大限に発揮していくこと、また、国内だけにとどまらず積極的に海外にも進出し、人口減少時代を迎える日本において多角的な収益構造を構築し安定した成長を目指すことを目標としております。

今期においても各事業の強みを確実に伸ばす事で、全体として売上高・経常利益共に伸ばす事が出来ました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高4,979百万円(前年同四半期比1.1%増)、営業利益276百万円(前年同四半期比16.9%増)、経常利益282百万円(前年同四半期比17.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、173百万円(前年同四半期比17.4%増)となりました。

売上高の増加は、主に食肉販売事業、介護事業売上が増加したことによるものであります。営業利益、経常利益の増加は、売上の増加に加え、介護事業における有料老人ホーム入居率の上昇や介護の利用者の増加等によります。売上高営業利益率も前年同四半期より0.8ポイント改善して5.6%となることが出来ました。

今後におきましても、売上高の増加、売上高営業利益率の更なる改善に加え、グループの目標通り東南アジアを含む様々な国や地域に進出し、事業を成長させる事に邁進してまいります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ会社の統制・管理、不動産賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス) (株式会社アスモフードサービス首都圏) (株式会社アスモフードサービス東日本) (株式会社アスモフードサービス中日本) (株式会社アスモフードサービス西日本)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス) (株式会社アスモライフサービス)	訪問・居宅介護事業所の運営、有料老人ホームの運営	
ASMO CATERING (HK) 事業 (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)	香港における外食店舗の運営	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	管理型信託商品の販売
	(アスモ少額短期保険株式会社)	少額短期保険商品の販売
	(ASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営

アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、従来から最重点販売しております収益力の高い高品質メキシコ産チルド牛肉の安定した販売が続いております。

最大11日の大型連休を控え、物流においての混乱が予想される中、事前の対応を取引先に促したことで、4月は大幅に売上を伸ばすことができました。5月はその反動があり需要が落ち込む場面もありましたが、気候が良く売上においても月次計画を超える販売ができました。6月は例年では梅雨入りとなり需要が落ち込む時期ですが、今年は梅雨入りが遅れたため売上に関しては計画以上に販売ができましたが、月末のG20サミットの期間中において大規模な交通規制により商品の出荷ができない期間が生じたため、利益面においては若干の落ち込みがありました。四半期連結累計期間ベースで前年同四半期を上回ることができました。

物流面では、働き方改革の影響として物流の制約が多くなったことに伴う輸送費・保管料等の料金高騰が昨年度にありましたが、今のところさらなる高騰はありません。保管倉庫・物流会社の方針としては自然災害時における営業を今後は控える方向で、自然災害時における機会損失については今後も起こりえることと思われまます。取引先様への理解を深めるとともに、事前手配にて対応していきたく存じます。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、926百万円（前年同四半期比10.9%増）、セグメント利益（営業利益）は、26百万円（前年同四半期比33.3%増）となりました。

今後は物流における問題の解決を図り、加工商品の安定した生産ができるよう加工工場の開拓を実施して安定的な商品の供給を行い、価格を含めた商品の優位性をアピールして顧客満足の拡充を追求してまいります。

アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、4月の乳製品・ペットボトル飲料等の値上げがありましたが、高齢者介護施設給食受託が順調に増加しており、売上高、営業利益ともに堅調に推移いたしました。

これにより当第1四半期連結会計期間末現在、受託件数は257施設（前年同四半期末は259施設）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,847百万円（前年同四半期比2.0%増）、セグメント利益（営業利益）は、133百万円（前年同四半期比2.5%減）となりました。

今後、春先の日照不足の影響で生育不良となったことが原因での青果仕入価格の高騰が懸念されておりますが、堅実に増収増益を維持できるよう、基盤の強化に努めてまいります。

また、お客様に対しましては、より良い食事・サービスを提供し、食材等につきましても、適時・適切・適正価格での商材調達を行うため、仕入れ業者の選定に努め、お客様に喜んでいただけるお食事の提供を行ってまいります。

アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所及び有料老人ホーム運営事業を営んでおり、業界全体としては恒常的な人手不足と、それに伴う人件費の上昇など、足元・先行きとも非常に厳しい状況にあります。

そのような状況の中、職員の離職防止に向けた教育制度や資格取得補助制度の拡充、キャリアパスとそれに伴う賃金体系の明確化に加え、昨年度より取り入れた介護記録の電子化による事務作業の軽減などが奏功して、職員の定着率が向上しました。その結果、受け入れ態勢が整ったことにより訪問介護事業所、居宅介護支援事業所のご利用者数及び有料老人ホームのご入居者数を伸ばすことができました。

これにより当第1四半期連結会計期間末現在、訪問介護事業所36事業所（前年同四半期末は37事業所）、居宅介護支援事業所12事業所（前年同四半期末は13事業所）となり、支援させていただいておりますご契約者様は、2,025名（前年同四半期末は2,019名）となりました。また、有料老人ホーム6施設（前年同四半期末は6施設）、ご入居者様数は332名（前年同四半期末は314名）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,571百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益（営業利益）は、184百万円（前年同四半期比33.2%増）と、増収増益となりました。

今後ともご利用者様の獲得に努めていくとともに、より良い人材の確保と定着を最重要課題として、介護サービスの質の向上を図ってまいります。

ASMO CATERING (HK) 事業

ASMO CATERING(HK)事業におきましては、昨年の旧正月明けから顕著になってきた採用難、またそれによる給与の高騰などの人件費の上昇と、生鮮品を中心とする食材価格の上昇という二重コスト高に苦戦を強いられております。加えて5月より香港各地で始まった政府への逃亡犯条例反対のデモ活動が香港島を中心に長期化してきているため、香港島を中心とした各店舗の売上が低迷しており、ここ数年にないほど厳しい環境が続いております。

各コストの上昇傾向への対策として、各コストに見合う価格調整（値上げ）を急ピッチで進めております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、512百万円（前年同四半期比12.4%減）、セグメント損失（営業損失）は、28百万円（前年同四半期はセグメント損失18百万円）と、減収減益となりました。

これまで日本と比較して、フルタイム従業員の割合が高く、パートタイム従業員の比率は低い状況でしたが、昨今では収入よりも自分の働き易い時間帯に無理なく働きたいというニーズも高まりつつあり、今後はよりパートタイム従業員の採用を促進し、パートタイム従業員を含めた勤務評価を制度化してまいります。

また、食材原価上昇への対策として、これまで日本より輸入していた食材を一部中国本土、もしくは東南アジアの日本向けの工場より直接輸入するスキームに取り組んでまいります。ある程度の量をまとめる必要があり、同業他社との共同購買によるコスト削減を図ってまいります。

上記の取り組みにより、既存店舗の収益力をより盤石にしたうえで新規出店を進めてまいります。

その他の事業

a. サーバントラスト信託株式会社

その他セグメントに含めておりますサーバントラスト信託株式会社は、管理型信託事業を営んでおり、『終活信託』と称した法人・個人向けの金銭管理信託（特定贈与信託、遺言代用信託を含む）及び不動産管理信託を主力とした高齢者及び葬儀社等の終活事業者向けに信託商品の販売を行っております。

超高齢化社会の到来により、高齢者の財産管理ニーズや資産承継ニーズが今以上に高まる中、今後更に『信託』の活用が高まっていくと予想されます。信託の特長である安心・確実な財産の保全をキーワードに高齢者のニーズを取り込み、本事業は今後も成長が期待できるものと考えております。

当第1四半期連結累計期間の売上につきましては、既存契約の解約の影響を受け、信託報酬21百万円（前年同四半期比9.4%減）、営業利益8百万円（前年同四半期比21.8%減）となりました。

引き続き、グループ会社とのシナジー及び高齢者支援団体等への営業活動を中心としたシニアマーケットの開拓により新規契約を獲得し、売上増加に努めてまいります。

b. アスモ少額短期保険株式会社

その他セグメントに含めておりますアスモ少額短期保険株式会社は、少額短期保険事業を展開しており、生命保険商品4種類（生命定期保険、入院保障付生命定期保険、無選択型生命保険、介護サポート総合保険）及び損害保険商品2種類（高齢者施設入居者家財保険、介護サポート総合保険）を販売しております。

生命保険商品は企業の従業員への福利厚生制度としての付保、保険比較サイト等による通信販売で販売しております。また、損害保険商品「転ばぬ先の杖」（高齢者施設入居者家財保険）、及び「てんとうむし」（介護サポート総合保険）は有料老人ホーム等を代理店化し入居者にお勧めする方法、及び老人ホーム紹介会社が他社との差別化を目的として1年間サービスとして付保するスキームにて展開しており、「転ばぬ先の杖」は当第1四半期連結会計期間に610件の新規契約があり、保有契約は1,857件となりました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、収入保険料は82百万円となり、計画86百万円に対し95.6%の達成率となっています。第2四半期連結会計期間以降、グループ会社とのシナジーを発揮させつつ、新規マーケットでの販売により新規契約を獲得し、収入保険料の増加に務めてまいります。

以上の結果、その他の事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は、119百万円（前年同四半期比29.2%減）、セグメント利益（営業利益）は、9百万円（前年同四半期比146.5%増）と、減収増益となりました。

(2) 財政状態

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は8,204百万円となり、前連結会計年度末に比べ143百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が181百万円、有形・無形固定資産が33百万円、繰延税金資産が57百万円減少し、受取手形及び売掛金が55百万円、商品が91百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は2,601百万円となり、前連結会計年度末に比べ162百万円減少いたしました。これは主に季節変動等により賞与引当金が86百万円、預り金が38百万円、未払法人税等が177百万円減少し、支払手形及び買掛金が34百万円、短期借入金が50百万円、未払金が83百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は5,603百万円となり、前連結会計年度末に比べ19百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が33百万円増加し、為替換算調整勘定が4百万円、非支配株主持分が8百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は67.3%（前連結会計年度末は65.9%）となりました。

売上の増加を見込んだ商品の増加が億円未満で、納税、賞与、配当等の支払を受けての現金及び預金の減少が限定的で、順当な増減であると認識しております。

資本の財源につきましては、当社グループの運転資金・設備投資においては、一部連結子会社で一時的な借入を行うことがありますが、基本的には自己資金により充当しております。当第1四半期連結会計期間末の有利子負債残高は、短期借入金50百万円とリース債務52百万円であり、前連結会計年度末と比較して45百万円増加しております。

現金及び預金の当第1四半期連結会計期間末残高は4,114百万円であり、資金の流動性は十分に確保できており、小規模ベースのM&Aや隣接事業への拡大についても対応出来る水準であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,145,175	15,145,175	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	15,145,175	15,145,175		

(注) 発行済株式数のうち461千株は、現物出資(貸付金債権299,650千円)によるものであります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプションの制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日		15,145		2,323,272		

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,124,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,018,500	140,185	
単元未満株式	普通株式 2,275		
発行済株式総数	15,145,175		
総株主の議決権		140,185	

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アスモ	東京都新宿区西新宿 二丁目4番1号 新宿NSビル	1,124,400		1,124,400	7.42
計		1,124,400		1,124,400	7.42

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、RSM清和監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,295,834	4,114,033
受取手形及び売掛金	2,036,706	2,091,840
商品	258,892	350,862
貯蔵品	11,865	12,002
その他	366,485	350,234
貸倒引当金	90,675	90,818
流動資産合計	6,879,108	6,828,154
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	250,941	220,644
有形固定資産合計	250,941	220,644
無形固定資産		
その他	30,642	27,213
無形固定資産合計	30,642	27,213
投資その他の資産		
その他	1,507,681	1,448,593
貸倒引当金	320,238	319,720
投資その他の資産合計	1,187,442	1,128,872
固定資産合計	1,469,026	1,376,730
資産合計	8,348,134	8,204,884

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	609,680	644,441
短期借入金		50,000
未払法人税等	235,650	57,793
賞与引当金	204,637	117,953
その他	1,473,886	1,487,589
流動負債合計	2,523,853	2,357,777
固定負債		
退職給付に係る負債	202,073	210,481
その他	38,270	33,401
固定負債合計	240,344	243,882
負債合計	2,764,197	2,601,660
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	3,100,373	3,133,917
自己株式	42,459	42,459
株主資本合計	5,381,186	5,414,730
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	136	266
為替換算調整勘定	111,716	107,353
退職給付に係る調整累計額	5,459	4,094
その他の包括利益累計額合計	117,039	111,181
非支配株主持分	85,710	77,312
純資産合計	5,583,936	5,603,224
負債純資産合計	8,348,134	8,204,884

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	4,923,132	4,979,550
売上原価	3,770,157	3,860,179
売上総利益	1,152,974	1,119,370
販売費及び一般管理費	916,130	842,404
営業利益	236,843	276,965
営業外収益		
受取利息	1,738	1,709
貸倒引当金戻入益		702
助成金収入	760	2,358
受取保険金		2,040
その他	4,136	2,040
営業外収益合計	6,635	8,851
営業外費用		
支払利息	342	270
為替差損		3,054
貸倒引当金繰入額	2,032	
その他	37	
営業外費用合計	2,411	3,324
経常利益	241,067	282,492
特別利益		
固定資産売却益	0	
特別利益合計	0	
特別損失		
固定資産除却損		2,602
特別損失合計		2,602
税金等調整前四半期純利益	241,067	279,889
法人税、住民税及び事業税	23,866	55,740
法人税等調整額	72,976	57,773
法人税等合計	96,843	113,513
四半期純利益	144,223	166,376
非支配株主に帰属する四半期純損失()	3,783	7,375
親会社株主に帰属する四半期純利益	148,007	173,751

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	144,223	166,376
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	70	130
為替換算調整勘定	19,531	5,385
退職給付に係る調整額	1,034	1,364
その他の包括利益合計	20,636	6,880
四半期包括利益	164,860	159,495
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	164,440	167,893
非支配株主に係る四半期包括利益	419	8,397

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	31,685千円	27,480千円
のれんの償却額	4,965	

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たりの 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月14日 取締役会	普通株式	140,207	10	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たりの 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月14日 取締役会	普通株式	140,207	10	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフ ードサービ ス事業	アスモ介護 サービス 事業	ASMO CATERING (HK)事業	
売上高						
外部顧客への売上高	1,188	835,986	1,812,619	1,518,794	585,325	4,753,913
セグメント間の内部売上高 又は振替高		16,186	59,181			75,368
計	1,188	852,173	1,871,800	1,518,794	585,325	4,829,281
セグメント利益又は損失()	44,580	20,251	136,604	138,708	18,221	232,763

(単位：千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	169,218	4,923,132		4,923,132
セグメント間の内部売上高 又は振替高		75,368	75,368	
計	169,218	4,998,500	75,368	4,923,132
セグメント利益又は損失()	3,851	236,615	228	236,843

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	232,763
「その他」の区分の利益	3,851
セグメント間取引消去	228
四半期連結損益計算書の営業利益	236,843

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフー ドサービス 事業	アスモ介護 サービス 事業	ASMO CATERING (HK)事業	
売上高						
外部顧客への売上高	1,188	926,724	1,847,991	1,571,205	512,709	4,859,818
セグメント間の内部売上高 又は振替高		24,301	61,745			86,046
計	1,188	951,026	1,909,736	1,571,205	512,709	4,945,865
セグメント利益又は損失()	48,483	26,995	133,209	184,810	28,839	267,692

(単位：千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	119,731	4,979,550		4,979,550
セグメント間の内部売上高 又は振替高		86,046	86,046	
計	119,731	5,065,596	86,046	4,979,550
セグメント利益又は損失()	9,494	277,186	220	276,965

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	267,692
「その他」の区分の利益	9,494
セグメント間取引消去	220
四半期連結損益計算書の営業利益	276,965

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	10円56銭	12円39銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	148,007	173,751
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	148,007	173,751
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,020	14,020
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、 前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2019年5月14日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額..... 140,207千円

(ロ) 1株あたりの金額..... 10円00銭

(ハ) 支払請求の効果発生日及び支払開始日..... 2019年6月27日

(注) 2019年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月8日

株式会社アスモ
取締役会 御中

R S M 清和監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 藤 本 亮

指定社員
業務執行社員 公認会計士 岡 村 新 平

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスモの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスモ及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。